

大学研究者が中小企業支援

試作開発、製品化促進へ フォトンバレーセンター

浜松版「産学連携」

光技術で課題解決

光・電子技術を活用した産業を支援するフォトンバレーセンター（浜松市中区）は、製品開発や既存事業の高度化に課題を抱える中小企業を大学の研究者がサポートする新たな取り組みを開始した。10月に県西部の製造業など6社を選定し、静岡大や浜松医科大などの研究者と課題解決を図りながら製品化や事業化を促進する。

欧州で約10年前から始まっている産学連携の産業促進手法「アクトファスト」の「浜松版」。通常は行政から対象企業に渡る補助金を大学などの研究者へ給付する代わりに、研究者は企業が望む新製品の試作までを手掛ける。浜松では、同センターが研究者に企業へのサポートを委託する形で資金を交付する。

対象企業は浜松、袋井両市の6社。今春に応募があった15件から、事業の将来性や実現可能性を踏まえて選定した。静岡大、浜医大、光産業創成大学院大、静岡理工科大の研究者は企業とともにプロジェクトチームを作り、来年3月まで電子薬器の医療応用や省エネ機能を備えたトップライトなどの開発に向けて専門技術を提供する。

伊東幸宏センター長は「光技術は応用できる分野が多岐にまたがる。産学の新たな関係が生まれるきっかけにしたい」と話した。

（浜松総局・金野真仁）